元気　友達　笑顔　いっぱい　かがやく

令和４年７月号

小田小だより

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西１丁目６９番１号　TEL045(775)3011

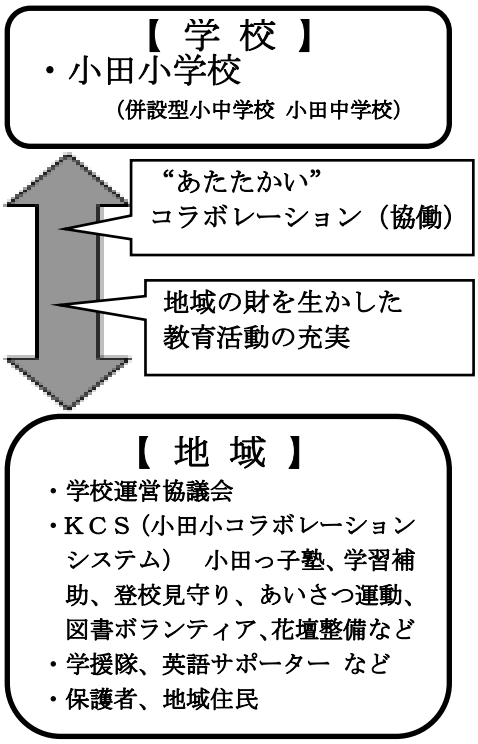
http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/koda/　　横浜市立小田小学校

学校と地域による“あたたかい”コラボレーション(協働)

校 長　　中 川　浩 二

梅雨に入り不安定な天候が続いていますが、たてわり活動がスタートし異学年の児童同士による交流の様子を見ていると微笑ましいです。

さて、小田小学校の教育活動は、「地域」のお力添えにより支えられていますが、今回は、この「学校」と「地域」について書いていきます。社会学者は、日本は地元商店的・人格的な「生活世界」からコンビニ的・没人格的な「システム世界」に変化したことで、「地域や家族の空洞化」が起き、日本の現状を「社会の底が抜けている状態」あるいは「経済が回っていても社会が回っていない状態」であると警鐘を鳴らしています。さらに、幼少期・青年期において、親との関係を「タテ」、友だちとの関係を「ヨコ」としたとき、近所の人などとの「ナナメ」の関係がなくなったことも大きいと述べています。私が小学生の頃は、「ナナメ」の関係であった近所の方から、叱られながら育てていただいた経験があります。インターネットや科学技術を利用して「便利」になった一方で、地域を含む人間関係の希薄化などを感じることはあるのではないでしょうか。



以上のことを踏まえて、社会学的な視座をもって「学校」と「地域」を捉えてみてはどうでしょうか。小田小では「地域との“あたたかい”コラボレーション（協働)」により、上述の「ナナメ」の関係を大切にし、子どもたちが地域のみなさまとふれあうことを通して、地域に対する愛着をもち、安心して生活することにつながります。また、細やかな声かけや支援が、子どもたちの意欲を高め、自信につながります。さらに、地域のお力添えにより、限られた「学校の経営資源（リソース)」の拡充を図ることができ、教育活動の充実につながる効果があります。

先進的なアイデアを取り入れている地域があります。それは、ナンバーワン・クエスションと呼ばれ、何かを決定するときはいつもみずからに「それは、子どもたちにとってよいことか」と問うてみよう、というものです。すばらしい取組です。「学校」と「地域」が、「子どものために」とのビジョンを共有しながら、自転車の両輪のように進んでいくことが大切です。地域のみなさまのご支援のもと、「持続可能な小田小」を、推進していきたいと考えています。

ＫＣＳ（小田小コラボレーションシステム）などのボランティアを募集しています。
地域のみなさまのご協力をお願いいたします。

【参考文献】

宮台真司／野田智義『経営リーダーのための社会システム論　構造的問題と僕らの未来』　（光文社　2022 年）